



静けさと、なめらかさと。
心地よさに包み込まれる。

ALENZA

SUV向けプレミアムタイヤ

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

株式会社ブリヂストン
【お客様相談室】フリーダイヤル0120-39-2936
受付時間：月～金（祝日および指定休日を除く）9:00～17:00
www.bridgestone.co.jp



YOKOHAMA

タイヤは、
雨で選ぼ。

BluEarth AE-01Fから
ADVAN **dB** W553に替えると
雨の日に約**20%短く**
止まれる!

*詳しくはカタログ・HPをご覧ください。



横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 | www.yokohama.com/product/tire/
月に一度は空気圧の点検を。

詳しくはこちら

4月8日「タイヤの日」

タイヤ産業

日常点検・整備 重要性を訴求

日本自動車タイヤ協会（JATMA）などは2000年に4月8日を「タイヤの日」と定めた。ドライバーにタイヤへの関心を喚起し、正しい使用方法を啓発することで、交通安全対策に取り組んでいる。メーカー各社は安心・安全なドライブを軸に、電気自動車（EV）対応や環境配慮、データ解析・管理など、さまざまな観点から高機能なタイヤを提案している。

JATMAはタイヤの日の啓発活動の一環として、タイヤの日啓発検・整備の重要性を幅広く訴求することを目的に、全国のパーキングエリア（PA）とサービスエリア（SA）で全国タイヤ商工協同組合連合会とともにタイヤ点検を実施している。25年は全国7カ所で行った。

タイヤの日における点検も含めて、25年に計340台を対象に行ったタイヤ点検では半数以上の53.8%が整備不良で、不良の内訳は空気圧不足が圧倒的に多かった。空

気圧不足は燃費や操縦性に悪影響を及ぼすだけでなく、事故にもつながる。月に1度の点検や、荷重、路面状態、車輪脱落予兆などを検知する必要がある。タイヤは車を走らせた後、内部に充填した空気が振動を吸収する。機能は同様に中国・重慶瑞馳汽車実業の新型商用EV小型トラックにおいて重要な役割を担う。メーカーは「安一瑞馳C5」に標準装備した。

心「安全」に加え、車された。内環境や静音性向上に関する技術開発を行い、最新のタイヤを開発している。「はむむ未来チャレンジ」を設定。CO₂削減や水素エネルギーを用いたタイヤ製造を推進するほか、サステナブル原材料の使用比率を30年までに40%、50年までに100%にする目標を掲げている。この達成に向けて、資源循環型カーボンブラックの採用などを進める。

住友ゴム工業の「センシングコア」技術は、タイヤの回転で発生する車輪脱落予兆などを検知する。タイヤの回転で発生する車輪脱落予兆などを検知する。

「安全・環境」の両立追求

自動車分野は電気自動車（EV）をはじめとする電動化や自動運転などのデジタル技術の進展、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）への対応など、大きな転換期を迎えています。そのような中で、路面と接して安全を支えるタイヤの役割は根幹において変わりません。

同時に、当協会が追求すべき目標が「安全」と「環境」であることも不変です。今年も4月8日のタイヤの日を軸に全国でタイヤ点検活動を実施するとともに、ポスターを展開し、ドライバーの安全意識の向上に努めます。

業務で自動車を運転する人々にとって、車両の安定稼働は重要課題であり、最重要部品の一つであるタイヤの適正な空気圧の維持が欠かせません。しかし昨年実施した路上タイヤ点検では、点検車両の約半数に空気圧不足が認められました。空気圧不足は偏摩耗や異常発熱を招き、最悪の場合、バーストや事故につながる恐れがあります。転がり抵抗の数値がまた燃費悪化やタイヤ寿命の短縮を通じて、コスト増の要因にもなります。

月1回の空気圧点検と運行前の目視確認を徹底し、溝の深さも損傷の有無にも注意を払うことが、安全確保と業務効率維持の確実な一歩です。

脱炭素社会の実現に向けて、タイヤ産業では製造から使用、廃棄に至るまでのライフサイクル全体で環境負荷を低減する取り組みが加速しています。耐摩耗

性向上や転がり抵抗低減といった技術開発により、使用段階での二酸化炭素（CO₂）排出量の削減と資源効率の向上を両立する製品の提案が拡大しています。

また「タイヤのLCC O₂算定ガイドライン」や、低燃費タイヤなどのラベリング制度の活用を通じ、環境性能の見え方も進展しています。転がり抵抗の数値からタイヤ使用時の1本当りのCO₂排出量を算定したところ、2024年は06年比で20.6%削減となりました。

当協会は25年から、低車外音タイヤのラベリング制度を運用しています。今年2月にはグリーン購入法基本方針において、乗用車用タイヤの車外騒音性能が判断の基準に設定されました。

さらに再生可能原材料の活用やリサイクル技術の高度化も進み、環境配慮型製品への需要も着実に高まっています。今後も、安全性能と環境性能を両立する技術革新が競争力のカギとなります。

日本自動車タイヤ協会 会長（住友ゴム工業会長） **山本 悟**




青を刻め

まだ、走ったことのない道へ。

TOYO TIRES



DUNLOP

オールシーズンタイヤは夏も冬も中途半端？

それ、
誤解です。

あらゆる路面にシンクロする

SYNCHRO WEATHER

次世代オールシーズンタイヤ

SUNNY RAIN SNOW ICE

※過酷な積雪・凍結路面を走行される際は、WINTER MAXX 03の装着を推奨します。

カーライフ 幅広く対応

を行っている。

EV向け 製品拡充

ブリヂストンは多様化するカーライフと幅広い顧客ニーズに対応する新しい車の拡充に取り組み。ブランド「FINESSE EV専用サマータイヤ」をA（フィネッサ）を展開したほか、バッテリー搭載による高荷重、高1弾として乗用車用タイヤ「同HB01」を2月に発売した。

同HB01は高いウエツト性能による安心・安全性と、優れた静粛性・乗り心地による快適なドライビングを実現。製品設計や素材選定において環境負荷低減にも配慮し、コストパフォーマンスにも優れている。セダン、コンパクトカー、軽自動車など多様な車種に対応する。

また空気の代わりにリサイクル可能なスポーク形状の熱可塑性樹脂で荷重を支える「AirFree」は、パンクの心配がなく、メンテナンスしやすい。地域社会のモビリティを支えることをミッションに、各自治体と連携しながら26年の社会実装に向けて実証実験

各種データを収集している。

サステナ素材 使用比率96%

TOYO TIREは25年10月、材料・シミュレーション・デザインの3技術を統合した新技術体系「THINK（シンク）」を確立した。

今後はすべての製品開発にシンクを適用。各技術を進化させながら横断的に連動させ、高精度かつ迅速な製品開発に応えていく。

また同社は同年12月、サステナブル素材の使用比率96・5%を達成した



ラベル表示で分かりやすく

次世代コンセプトタイヤを発表した。バイオマス由来のゴムやCO₂由来のブタジエンゴム、再生カーボンブラックなどを使用。さらに硫黄や酸化亜鉛といった従来代替が困難だった素材の再生化も実現した。

同社は今後、欧州ビジネスの土台となる研究開発・生産・販売機能をセリアに集約し、製品性能やブランド力、事業の競争力を鍛えていく。

JATMAは「低燃費タイヤ等のラベリング制度」や「低車外音タイヤのラベリング制度」を実施。メーカーと消費者の橋渡しをしている。ラベル表示によ

って消費者に分かりやすく適切に情報を伝えることも、低燃費タイヤや低車外音タイヤの普及促進にもつながっていく。

4月8日「タイヤの日」タイヤ産業

有力企業の製品・技術 順不同

住友ゴム工業

住友ゴム工業のDUNLOP「SYNCHRO WEATHER」は、天候による路面の変化に合わせてゴムの性質が変化する「アクティブトレッド」技術搭載の次世代オールシーズンタイヤ。ドライ、ウエット、氷上、雪上などあらゆる路面に対応する。

ウエット性能は同社製スタンダードサマータイヤ（EC204）と同等以上と優れ、従来のオールシーズンタイヤではカバーできなかった凍結路面でも快適に走行できる。全12サイズをラインアップし、幅広い車種に対応する。

同社は昨年12月、コミュニケーションブランドを「DUNLOP」に統一し、グローバルでの展開を加速していくことを発表した。

横浜ゴム

横浜ゴムはグローバルフラッグシップタイヤブランド「ADVAN」や低燃費タイヤブランド「Bluearth」を中心に、ウエツト性能で最高グレード「a」を獲得した製品の拡充を進めている。昨年12月時点で、「a」を獲得したサイズ数は業界トップで、雨天時の安全性を重視したラインアップを強化している。

特にウルトラハイパフォーマンスタイヤ「ADVAN Sport V107」やプレミアムコンフォートタイヤ「同dB V553」、プレミアムSUUV向けタイヤ「同V61」の拡販に注力し、同dB V553では全サイズでウエツト性能「a」を獲得。また女優の吉岡里帆さんを起用したプロモーションで雨天時の安全性の重要性を訴求している。

ブリヂストン

ブリヂストンはロードノイズを従来品比16%低減したスポーツ多目的車（SUUV）向けプレミアムタイヤ「ALENZA LX200」を7月に発売した。路面から伝わる振動を吸収し、上質な乗り心地を提供するほか、人に聞こえやすい低周波領域を中心に静粛性を大幅に向上。ハンドリング性能とぶらつきにくさを両立し、SUUVならではのドライビ

ングを提供する。またウエットブレーキ制動距離を従来品比15%短縮し、ウエツト性能は全サイズで最高グレードの「a」を達成。雨天でも安全・安心なハンドリング・ブレーキ性能を実現する。さらに新ゴムの採用や軽量化、接地形状の最適化で転がり抵抗を従来品比18%低減し、低燃費性も向上させた。

TOYO TIRE

TOYO TIREはグローバル・フラッグシップタイヤブランド「PROXES」プロクセス「シリーズのプレミアムスポーツタイヤ」PROXES Sport 2」を売り出している。非対称のトレッド（接地面）パターンとコンパウンドを採用し、高度なハンドリング性能とブレーキ性能を実現。さらに、新プロファイル形状を採用したことで、タイヤの局所的な変形が抑制されウエツト面、ドライ面でのハンドリング性能が向上した。

同社は2030年に向けての技術戦略で欧州の研究開発（R&D）体制を強化する方針。PROXESブランドの価値向上を図り、競争力を高めていく。